

保護者の皆様

可部 つちくれの家
平成 29 年 4 月 5 日
施設長 米田香代子

施 設 だ よ り 4 月

3 日からスタートした 2017(平成29)年度。社会福祉法人清流は今年度も 2 名の新しい仲間を迎えました。

一人は広島市立広島特別支援学校卒業の近澤拓哉さん。もう一人は広島県立広島北特別支援学校卒業の山名雪乃さんです。

今年度の第 1 日目に行われた入所式は、昨年までの式とは違い、昨年の祭り同様、「社会福祉法人清流自治会」の仲間たち自身が企画・司会・進行によるものでした。

正面の紅白幕に掲げる『平成 29 年度』『社会福祉法人清流』『可部つちくれの家』『入所式』という式の表題も、『式次第』についても、仲間たちの「難しい漢字が多くて何が書いてあるか自分たちには解らない」という意見に、式次第はプログラムに代え、自治会役員メンバーと各クラスの仲間たちがそれぞれ分担して書いたものを使用しました。

また、新しい仲間贈る各クラスの出し物も、何が良いか皆で考えて準備していくことを基本に据えて取り組みました。

このように入所式に向けて自治会中心に準備を進めることで、『入所式』が仲間にとって身近な行事になったのでしょうか。

何が行われているか解って参加するということは、行われている中身・内容に興味を抱き、一人ひとりが主体的に参加できる姿勢に繋がっていくのだと思います。

『入所式』ということが解って参加している仲間たちは、昨年同様にいつもと違う環境(場)にちょっぴり緊張しつつも今年は、自分たちの仲間が今日からまた二人増えるのだという自覚の上に、歓迎する嬉しい気持ちや、「自分たちが準備し、作りあげたきた今日の入所式」に向かう主体的な前向きさと自信をも感じ取れる姿を見せていました。

入所式のお祝いに来ていただいた来賓の福田様も若林様も、仲間たちが主体的に参加している姿を見て「皆さんが企画し司会進行しているこのような入所式に参加したのは始めてです。とても素晴らしい入所式ですね」と褒めていただきました。

毎年の様々な取り組みの積み重ねと取り組む主体性の育成やその育成された力を発揮する体験が、自信を育み、その人が求める様々な自己実現に向けてがんばれる人格形成作りを推し進めていくのでしょうか。

今年度も仲間それぞれの育ちに喜びを感じ、少しずつ変化・変容している仲間の姿に感動を覚え、その育ちの原因や背景を振り返る中で自らも成長させてもらうなど、仲間と共に成長し合える職員を目指していきたいと思っています。